

プ ー ル 競 技 規 則 説 明 会

公開資料

ライフセービングスポーツ本部
競技審判委員会



**JAPAN
LIFESAVING
ASSOCIATION**

本日のアジェンダ

1. プール競技規則説明会の趣旨と目的
2. JLAコンペティション・ルールブック JLA競技規則2023年版での改訂ポイント
 - マネキンを運ぶ(キャリア)についての変更点
 - マネキントウ・ウィズフィン
 - ラインスロー
 - メドレーリレー
6. 抗議と上訴とは
7. 近年の失格事例の共有
8. 質疑応答



マネキンを運ぶ(キャリア)についての変更点

競技のより公平な判定のためマネキンキャリアのルールが改定され、マネキンの喉(首)、口、鼻、又は目を握る又は掴む失格、腕をマネキンの喉(首)にかける又は巻きつけてキャリアする失格が削除された。

ポイント！

- ◆ 少なくとも一方の手が常にマネキンに触れてマネキンを運ばなければならない。
 - ◆ マネキンを押してはいけない。
 - ◆ マネキンの頭部をキャリアする方向に向けてマネキンを運ばねばならない。
 - ◆ マネキンの密閉プラグ(sealing plug)を掴んでは(摘まんでは)ならない。
 - ◆ 競技者とマネキンは一体とみなし、どちらかは水面に留まっていなければならない
(両方共に「水面下」であれば失格。但し、競技者の頭部又は腕などの体の一部がレース全体を通して水面上にあれば、通常のストローク又はキックサイクルの一部として競技者が水面下に一瞬沈んだとしても失格ではない。
- ~~◆ マネキンの頭部は、競技者の身体のいかなる部分にも覆われたり、競技者の身体のいかなる部分の下でも運ばれてはならない。~~



マネキントウ・ウィズフィン

競技のマネキンハンドラーは、競技者が折返し壁/縁にタッチした後マネキンを放してよいが、競技者がマネキンを引っ張る（トウする）ため確保しようと意図的にマネキンに接触したら、直ちにマネキンを放さねばならない。

ポイント！

- ◆ 競技者がマネキンを引っ張るため確保しようと意図的にマネキンに接触したら、直ちにマネキンを放さねばならない。
- ◆ 折返し壁/縁にタッチする前に意図せずマネキンに触ることは失格ではない。
- ◆ マネキンハンドラーは、コンペティション・キャップをかぶらねばならない。

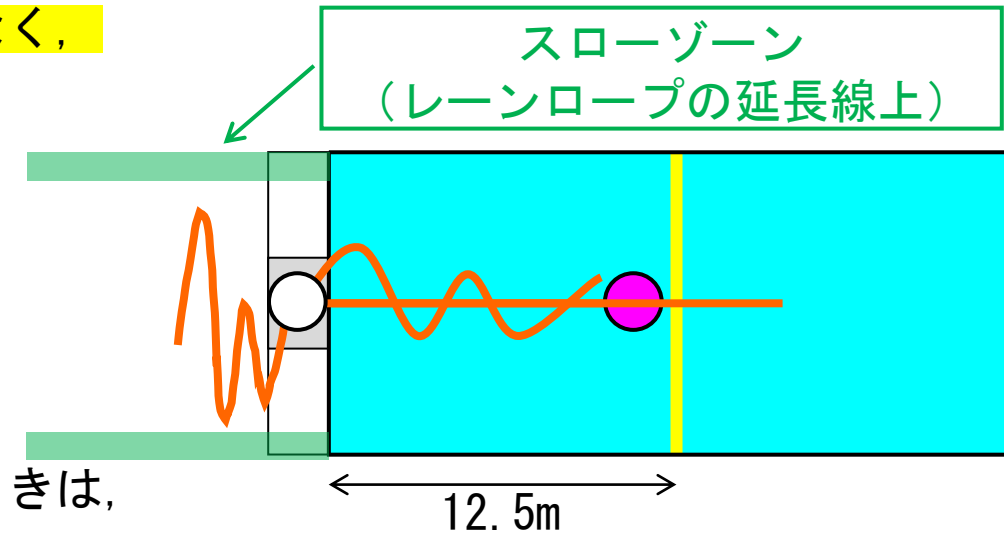


ラインスロー

スローゾーンの後方ラインを印す必要はないが、スローと手繰り寄せに支障が無いよう、プール壁の垂直エッジ（縁）から最低でも2.0 mは必要である。

注意1：ジャッジの観点から、競技者は自身のレーン内に留まることが求められる。

しかしながら、足がラインに乗っているかという位置の問題ではなく、むしろ、競技中に他チームを妨害していないかが重視される。



ポイント！

- ◆ スタート前に**投げる**ことは許されない。
- ◆ スローゾーンの後方を印すの**ライン**がなくなった。
- ◆ 身体のいずれかの部分を使ってラインを集める又は手で掴むときは、**クロスバー**を手で掴んでいなければならない。
- ◆ スロアーは、**腕**を使って被救助者役を引き寄せなければならない。
そして、スローラインを手で掴んで又は身体のいずれかの部分に**巻きつけて歩く又は走る**こと、又は被救助者役をフィニッシュ壁に引き寄せている間、**故意に後ろ向きに歩く**ことは許されない。

メドレーリレー

第4競技者は、第3競技者が折返し壁/縁にタッチする前に、レスキューチューブ、そのハーネス又は紐に一方の手で触れる又は掴んでもよいが、第3競技者が縁にタッチするまで折返し壁/縁又はスターティングブロックに少なくとも一方の手を接触させておかねばならない。
第4競技者は 手、腕、又は足で壁/縁を押してもよい。

ポイント！

- ◆ 第2競技者は折返し壁/縁にタッチする前に水面を突き破って浮上する必要はない。
- ◆ 第3競技者が折返し壁にタッチする前に、レスキューチューブにも触れても良いが、少なくとも一方の手を壁等に触れておくこと。
- ◆ 被救助者役はレスキューチューブ本体及び/又はクリップを掴まなければならない。



失格およびDNFについて

1. 競技者が何らかの理由で競技を終了しなかった場合には**DNF** (Did Not Finish) という扱いとなる。
(失格とは異なる。)
2. クラブ・競技者が**「失格」**を適用される範囲は、その理由によって2段階の差がある。
 - **「競技種目別」**の失格
 - **「競技会全体」**での失格
3. **ハンドラー/マネキン・ハンドラーの不正行為によって、競技者・チームが失格となることがある**



抗議と上訴について

□ 抗議が認められない場合

1. フィニッシュジャッジのフィニッシュ着順の判定に直接的に抗議すること
2. スターターによるスタートの判断・決定
3. 組織委員会の決定（競技規則，競技規準，タイムテーブル等）
4. 自然現象による不利益や事故
5. 競技者又はチームが直接干渉を受けた場合を除き，
同一競技内の他の競技者又はチームの行為に対するもの

□ 抗議が認められる場合

1. 競技会参加申し込みの手続き，参加資格に関すること
2. 器材検査や器材適正に関すること
3. 競技中に起きた行為や競技規則違反に関すること
競技が実施される条件（コース・組み合わせ等）に関すること





コンペティションリエゾンオフィサーとは？

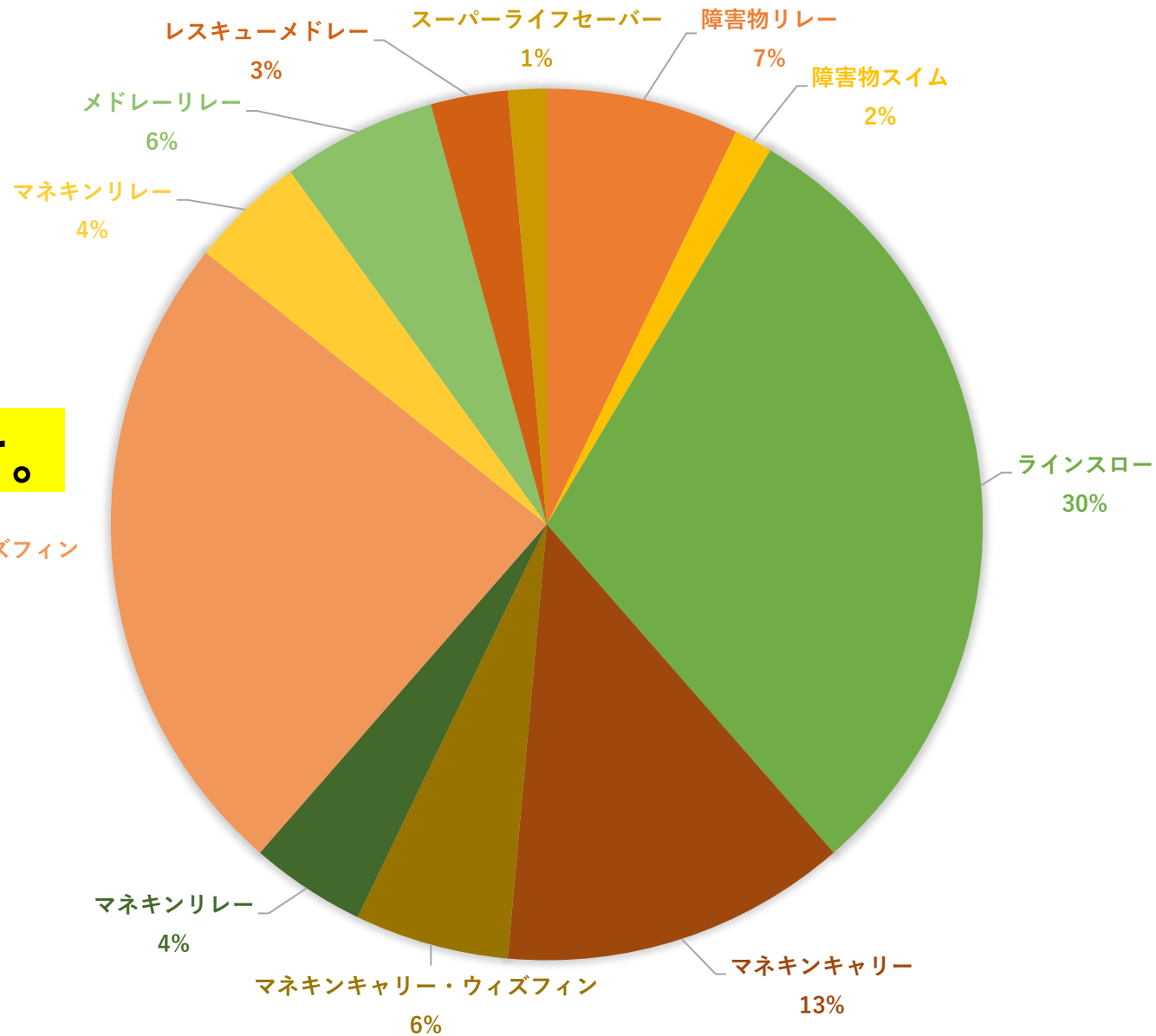
- 競技者，コーチ，チームマネージャー，オフィシャルとの間に立ち，競技の実施に関して支援し，**競技規則や質問のコミュニケーションを図る**
→コンペティションリエゾンオフィサーは**「つなぎ役」**となる役割
- 競技者，コーチ，チームマネージャーに対して，抗議や上訴の手続き，及びチーフレフリーへの最善のアプローチ方法について案内をする
→**競技会において、ジャッジ（審判）する立場ではない**
- リエゾンオフィサーらは，常にバイアスなしに職務を遂行し，オフィシャル，競技者，コーチ，チームマネージャーらに対してオープンで**中立的な立場**を維持した業務を実践する



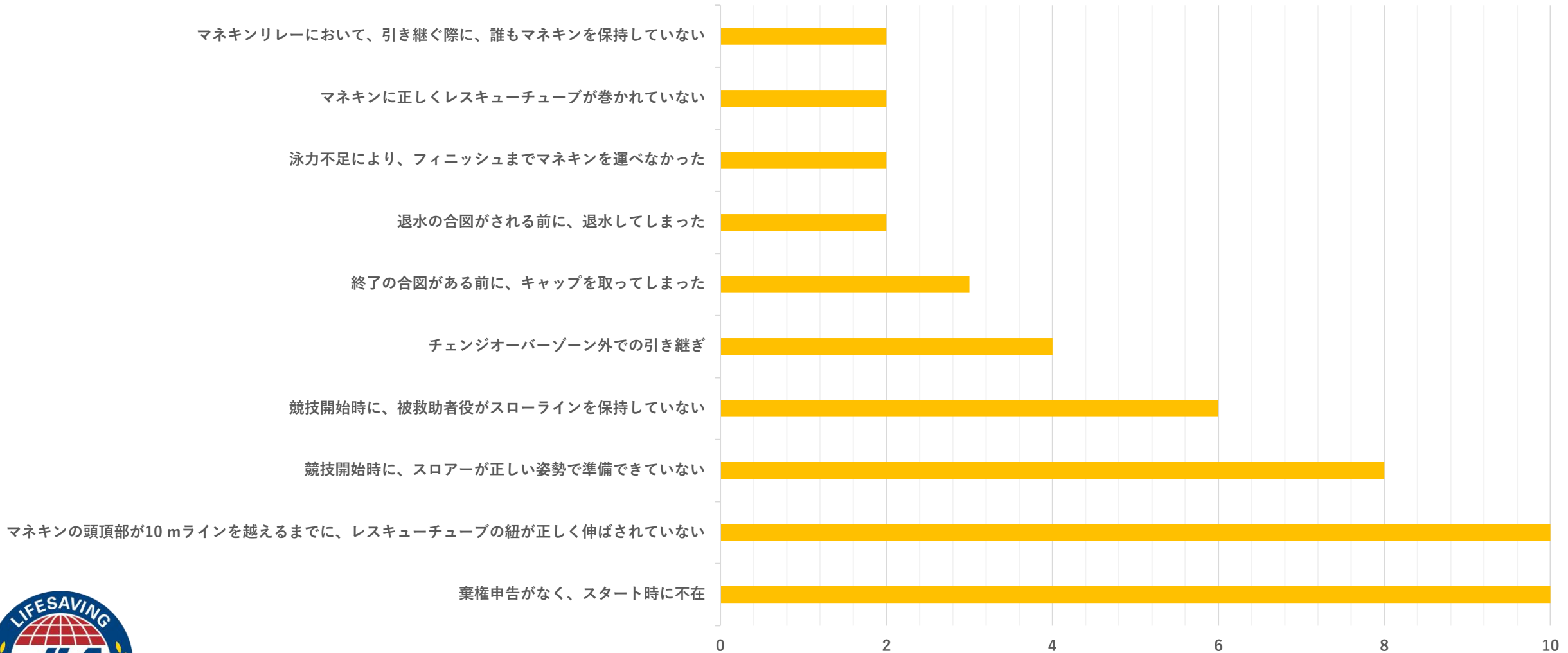
近年のプール競技会での失格事例

2023年5月に実施した
全日本プール選手権では、

70件 失格が発生しています。



近年のプール競技会での失格事例



質疑応答

●メドレーリレー（3泳から4泳の引き継ぎ）

3泳が壁にタッチする前に4泳がレスキューチューブに触れることが失格ではなくなった規則の変更について、ジュニア競技規則も変更となるのか。

→競技規則2023年版から、ジュニア競技規則も変更済みです。

●マネキントウ・ウィズフィン

「意図的にマネキンに触れる」とはどのように判断するのか。

→例えば、マネキンの首や肩に手をかけて「引き寄せる動作」などが該当します。

●マネキンをキャリー

競技者とマネキンのどちらかであれば沈んでもよいとされたのはなぜか。

→競技規則2014年版での改訂より、そのように変更されたためです。



質疑応答

●ラインスロー

「後ろ向きに歩く（走る）」はどの程度であれば許されるのか。

→○歩、○mなら良いという明確な基準はありません。

●ラインスロー

スローゾーンの後方を示すテープは貼らない運用になるか。

→レーンロープの延長線のみ、「テープ等」を貼り区切りを明確にします。

スローゾーンの後方を示すテープは必要がないため貼りません。

●審判員として失格前に注意（エリアから出そう等）することは可能か。

→審判員から競技者に対しての注意はできません。

